

J A池田、高島 合併へ実務協議 推進委を設置

2015年5月26日

委員長に鈴木組合長



あいさつする鈴木組合長（前列右）。
同中央は八木組合長

【池田】 J A十勝池田町（鈴木雅博組合長）と、J A十勝高島（八木英光組合長）の2 J Aは25日、合併に向けた実務レベルの協議を進めるため、「池田町内 J A合併推進委員会」を設置した。委員長に鈴木組合長、副委員長に八木組合長を選任した。

非公開で行われた協議では、同委員会内に役員会、幹事会を設け、さらに実務の検討を進めるため、「農産」「畜産」「営農」「購買」「管理・信用・共済」の各作業部会を設置することを決めた。今後、作業部会を中心に両 J Aの基礎・財務調査を進める。同委員会は月1回をめぐりに開催し、具体的な検討、協議を進めていく。

会議後に記者会見した鈴木組合長は「心の豊かさや地域農業の発展の均衡が取れる農村社会を目指す」とし、八木組合長は「10年後、15年後に合併してよかったと言われるよう継承したい」と抱負を述べた。

J A士幌、じゃがりこ工場新設 ポテチ切り替え

2015年6月9日

【士幌】 J A士幌町（高橋正道組合長）は今年度、同 J Aの食品加工会社北海道フーズ（町西2線146、鹿島憲夫社長）の敷地内北側にスナック菓子「じゃがりこ」を製造する工場を新設する。スナック菓子製造のカルビー（本社東京）のOEM（相手先ブランド名製造）で生産しているポテトチップスから、売上高が伸びているじゃがりこに切り替えることで、消費者ニーズの対応強化を図る。

50億円で新設、来秋稼働

9日午前10時に町農業会館で開かれた同 J Aの通常総会で公表された。7月に着工、来年9月に製造を開始する見通し。総事業費は50億円を見込む。

カルビーによると、じゃがりこの売り上げは今年3月期で前年比7.9%増と好調に推移。このため、同社は需

要増に伴う製造ラインの増強策として、原料の安定供給を続ける同 J Aと協議を重ね、現行のポテトチップスの製造を千歳工場に集約する形で合意したという。

北海道フーズはカルビー以外が製造する協力工場として1973年に設立。76年にポテトチップスの生産を開始し、産地限定の生産者還元用ポテトチップス（塩、のり塩、コンソメ味）を除いた昨年度の生産量は約1500万袋に上る。

カルビーの製品を製造する工場は全国に15あり、うちじゃがりこの製造工場は帯広、茨城、京都、滋賀、岐阜の5カ所。

帯広工場（市別府町）は1997年に創業し、増強などを経て現在の生産量は年間1億3000万箱、国内の3割を占める。